

道徳科学習指導案

指導者 T1
T2

- 1 日時 令和2年 6月24日(水) 第5校時
- 2 学年 小学校第1年(男子3名, 女子2名) 2年(男子2名, 女子1名)
- 3 場所 1・2学年教室
- 4 主題名 ともだちがいるとうれしいきもちがいっぱい【内容項目B 友情・信頼】
- 5 ねらい ぞうさんが森のお友達にわけてあげたいものが、まわり回って自分のもとに戻ってきたときの心情を考えることを通して、自分のことだけでなく、友達のことを考えて行動すると互いに嬉しくなることに気付き、友達と仲良くし助け合っていこうとする心情を育てる。
- 6 教材名 「ぞうさんとおともだち」 【生きる力 日本文教 1年】

7 主題設定の理由

○主題観・価値観

友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在である。友達関係は、共に学んだり遊んだりする中で、楽しいことや嬉しいことを共有したり、悲しいことや大変なことを助け合って乗り越えていくことで深まっていく。友達と一緒に、仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感すると共に、互いの考え方を交え、理解し合う経験を積み重ねていくことが、信頼し合える人間関係を築いていくことにつながっていくのである。よりよい友達関係は、豊かに生きる上での大切な存在として、自分自身を成長させるものであると考える。

低学年のこの時期には、新しい人間関係の中で生まれた身近にいる友達と一緒に勉強したり、遊んだりすることのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と違う考えを受け入れたりすることが難しい面もあるが、学校や学級の中で一緒に生活し困っている友達に声をかけたり助け合ったりする経験をもとに、友達のよさに気付き、仲良くしようとする心情や態度を育て、よりよい人間関係を築こうとする資質・能力を育てることが求められている。低学年では、友達のよさを感じ、進んで助け合おうとする心情を育てることで、将来的には、信頼し合える人間関係の礎を築き、切磋琢磨の精神をもち、相互の生活を豊かにしていくためにできることを進んで実践することができるように、本主題を設定した。

○教材観・指導観

本教材は、ぞうさんが育てて収穫したおいもをうさぎさんにおすそ分けをしてあげたことで始まる。そのおいもはうさぎさんからくまさん、くまさんからぶたさん、そしてぶたさんからぞうさんのもとに届けられ、森の動物たちが仲良く助け合うよさを分かち合うお話である。ぞうさんの友達のことを考えた行動によって、友達同士の嬉しい気持ちが新たな行動へと繋がり、再びおいもと共に自分のもとに戻ってきたことから、友達という存在の大切さに気付き、仲良く一緒に行動することのよさを考えることができる教材である。

指導にあたり、導入では、1・2年生でサツマイモの苗植えをしたことを振り返り、「とれたおいもはどうしたいか。」と問いかけ、本時の価値についての方向付けを行う。

展開前半では、うさぎさんがぞうさんからおいもをもらった行動を役割取得し、おいもをもらった時の気持ちや友達がいることのよさを感じるきっかけとなったことを考えさせていく。中心発問では、自分のことを大切に思ってくれている友達の行動から、自分の気持ちがあたたかくなっていることに気付かせたい。

ステージ発問では、ぞうさんがぶたさんからもらったおいもにはどのような気持ちが入っているかを問い、おいもには動物達の友達のことを考え、分け合おうとする気持ちがたくさん込められていることに気付かせたい。役割取得をしている間は、「話していること」「どんな仕草、表情だったか」をよく見て聞くように指導し、演技の後、発言や行動について発見したことを発表させる。

展開後半では、きれいな月をながめているぞうさんたちの気持ちについて触れ、おいもを分け合ったことで、みんなが嬉しい気持ちになり、仲良くすることで生まれるあたたかい気持ちについて話をする。

終末では、教師がぞうさんのように仲良く助け合おうとする児童の発言や姿を見付け紹介する。

8 指導のポイント

ステップ	学習展開	ステップの視点	本時の工夫
1	導入	【チャレンジ】 ○課題把握 ○動機づけ(価値または教材)	○価値への動機づけ サツマイモの苗植え(生活科)
2	展開(中心発問)	【考えをあきらかにする】 ○考えの根拠の明確化	○ワークシートへの記述
3		【さらにさらに問いを見つける】 ○自他の意見への問いの連鎖	○役割演技 ○ステージ発問 (上位学年に焦点を当てた発問)
4		【未来に広げる】 ○自己との関りを深める工夫	○他教科への関連 日常生活を振り返る
5	終末	【(明日へジャンプ)学習を振り返る】 ○価値の一般化, 自らの生き方への意欲付け	

9 友情, 信頼の発達の段階

	目標	キーワード
低学年	友達と仲よくし, 助け合うこと。	友達 友達のよさ 仲良く
中学年	友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。	友達 理解 助け合うこと
高学年	友達と互いに理解し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら, 人間関係を築いていくこと。	友達 相互理解 学び合い 異性についての理解 人間関係を築いていくこと
中学校	【友情, 信頼】 友達の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合うとともに, 異性についての理解を深め, 悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友達 高め合うこと 異性についての理解 悩みや葛藤 人間関係を深めていくこと

10 『吉き舎り道徳学習プログラム』

吉き舎りプログラム名	「ともだちっていいな」	
めざす資質・能力	共感力・コミュニケーション能力・表現力	
めざす児童・生徒像	・ 友達のよさを感じ、仲良くできる子ども ・ 友達のことを考えて行動できる子ども	B…友情, 信頼 C…公正・公平・社会主義 D…生命の尊さ
ねらい	命や友達との関わりを通して, 友達と仲良く, 助け合おうとする道徳的実践意欲の育成	

ともだちっていいな

過程	意識の流れ	道徳科	教科・領域・行事
発見 気付き 思考	みんな大切な命をもっているんだね。 【問い】 アサガオやミニトマトを元気に育てるためには… 【問い】 誰とでも同じように接するとどんないいことがあるのかな… 【問い】 みんながダンスを覚えて上手になるためには…	道徳科 教材名「うまれたてのいのち」 D 生命の尊さ 【ねらい】 人や動物, 植物など生きていることの素晴らしさを感じ, すべての命の大切さについて考える。 道徳科 教材名「もりのふれぜん」と C 公正・公平・社会主義 【ねらい】 公正, 公平な態度のよさを実感し, 自分の好き嫌いとらわれないで接することの大切さについて考える。	生活科 ◎「きれいに咲いてね, 大きくなあれわたしの野菜」 アサガオやミニトマトの栽培を通して, 植物の成長に関心をもって, 大切に育てることができるようになる。 体育科 ◎「表現リズム遊び」 誰とでも仲良く踊ったり, 楽しく教え合ったりすることができるようにする。
実践意欲	【問い】 自分たちで植えたさつまいもが収穫できたら…	道徳科 教材名「ぞうさんとおともだち」 C 友情, 信頼 【ねらい】 自分のことだけでなく友達のことを考えて行動するよさを考える。	行事 ◎「さつまいもの苗植え」 秋の収穫を楽しみに, 苗をていねいに植えることができるようにする。
友達も自分も大切な命をもっている。それを大切にするには, 自分だけのことでなく, 友達のことでも考えて行動すると素敵だね。友達がいると嬉しい気持ちも増えていくね。			

1 1 準備物 資料, 道徳ノート, 発問短冊

1 2 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	T 1	T 2	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 おいもを植えたことを振り返る。	○ 1・2年生でさつまいもを植えましたね。おいもがたくさんとれたらどうしたいですか。	発問 交流	観察	○ 1・2年生でいもを苗植えをしたことを振り返る。
展 開	2 教材「ぞうさんとおともだち」を読んで話し合う。 (1) ぞうさんたちがおいもを分け合っていく時の気持ちを考える。 (2) ぞうさんの友達のことを思う心情を考える。 【考えをあきらかにする】 (3) おいもに入っているぞうさんたちの心情について考える。 【さらに 問いをもつ】	○ 「ぞうさんとおともだち」を読みます。お話の中で仲良しだなと思うところを見つけながら聞きましょう。 ○ おいもをあげたぞうさんやおいもをもらったうさぎさんはどんな気持ちでしょうか。 ・うさぎさんが喜んでくれたらいいな。 ・ぞうさんは、やさしいな。 ◎ ぶたさんからおいもがかえってきたとき、ぞうさんはどんな気持ちだったでしょう。 ・このおいもは、ぼくがうさぎさんにあげたおいもかな？ ・嬉しいな。ありがとう。 ・きっとぼくのあげたおいもがみんなのところへ届いたんだろうな。 ・ぶたさんもぼくのことを考えておいもをくれたんだな。 ステージ発問 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ぶたさんから返ってきたおいもには、どんな気持ちが入っているのかな。</div> ぶたさんから返ってきたおいもには、 ・ぞうさんの嬉しい気持ちだけではなく、みんなの嬉しい気持ちが入っている。 ・みんなが友達のことを大切に思う気持ちがいっぱい入っている。 ・やさしい気持ちが初めよりたくさん入っている。	範読 板書	板書 発問 役 割 演 技	○ 役割取得を取り入れ、おいもを分け合う動物達の気持ちを考えさせる。 ○ 教師がぞうさん役、児童はうさぎさん役をする。 ○ お友達もぞうさんと思うやさしい気持ちをもっていることに気付かせる。 ☆ 友達のことを考えて行動すると自分も相手も嬉しくなることに気付いている。 ○ 教師がぶたさん役、児童がぞうさん役で役割取得をする。 ○ ステージ発問は、2年生を中心に問う。
終 末	3 自分の生活を振り返る。(内省化) 【未来に広げる】 (1) 自分の生活を振り返る (2) 未来へ広げる考えを見つける。 4 振り返りをする。 【未来へジャンプ】	○ 友達と仲良くしてよかったと思ったことはありますか。 ・本を貸してあげた。 ・「一緒に遊ぼう。」と声をかけた。 ・一輪車の練習を手伝った。 ・落としたものを拾ってあげていた。 ○ 話し合ったことの中から、「未来へジャンプ」を見つけましょう。 ○ 今日の学習でわかったことやこれからやってみいたいと思ったことを書きましょう。	発問 実 態 把 握	板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握 板書 実 態 把 握	○ 学んだ価値について、自分の生活や経験を振り返り、これからの自分に生かす思いを道徳ノートに記入させる。 ○ 道徳プログラムの関連を生かし、「友情、信頼」の思いを自分の生活に重ねて深めさせる。 ○ 教師も児童の姿で友達と仲良くしてよかった場面を紹介する。 ☆友達となかよく生活するためにできることをやってみようという意欲と態度をもてている。(発言、ノート)

13 板書計画

